

TOKYO GAS

通信

東京ガス通信 株主の皆さまへ

2014年3月期 第2四半期

(2013年4月1日～2013年9月30日)



P.1
連結決算ハイライト

P.2
株主の皆さまへ

P.5
特集
東京ガスの原料調達

P.9
東京ガスニュース

P.11
東京ガスで味わう
おいしい食卓

P.12
連結決算のご報告

P.14
会社情報

2013
秋冬号

連結決算ハイライト

2014年3月期 第2四半期 (2013年4月～9月) 業績のポイント

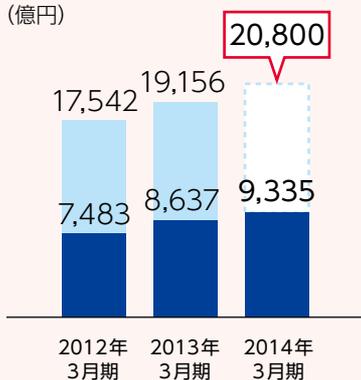
増収増益を達成 (増収は4期連続、増益*は2期連続) *当期純利益ベース

- 家庭用需要の落ち込みが見られたものの、原料費調整制度による都市ガスや、LNG販売等の売上が増加した結果、売上高は前年同期比698億円・8.1%増の9,335億円となり、4期連続の増収を達成しました。
- 円安影響によるガス原材料費の増加や、LNG販売等の費用が増加したこと等により営業費用が前年同期比663億円・8.3%増加しましたが、当期純利益は前年同期比28億円・7.0%増の427億円となり、2期連続の増益となりました。

▶ その他業績に関する詳しい説明は、P.12「連結決算のご報告」をご覧ください。

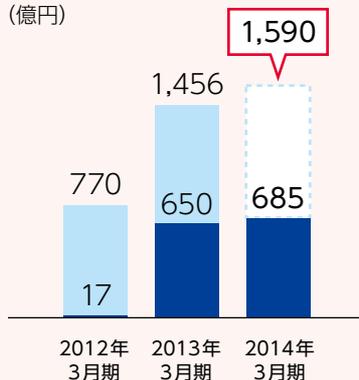
売上高

(億円)



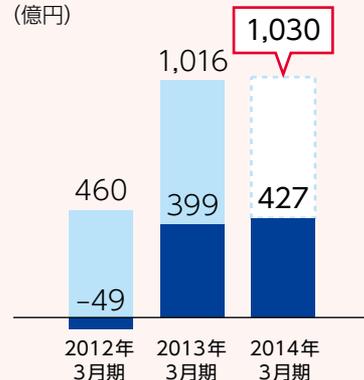
営業利益

(億円)



当期純利益 (純損失)

(億円)



■ 第2四半期 ■ 通期 (2014年3月期は見通し)

2014年3月期 通期業績の見通し

- ガス販売量は、気温影響による家庭用需要の減少や、発電用需要減の影響による工業用需要の減少により、前期比5.9%減少の見通しです。
- 円安影響により都市ガス原材料費は増加するものの原料費調整制度により都市ガス売上高が増加することに加え、海外事業の利益も増加することから営業利益、経常利益、当期純利益は前期を上回り、増収増益となる見通しです。

株主の皆さまへ

東京ガスグループは一丸となって 「LNGバリューチェーンの高度化」を 推進していきます。

■ 2014年3月期上期のご報告

2014年3月期上期のガス販売量は、平均気温が高く推移した影響による家庭用の減少に加え、発電用などの工業用の減少により、前年同期比4.6%の減少となりました。

営業利益については、ガス販売量は減少したものの、スライドタイムラグによるガス販売収支の改善や、電力事業が好調だったことなどにより、前年同期比5.3%増の685億円となりました。

2014年3月期通期では前年比9.2%増の1,590億円の営業利益を見通しております。年度見通しを達成すべく、下期も東京ガスグループ一丸となって取り組んでまいります。

代表取締役社長 岡本 毅

■ 「LNGバリューチェーンの高度化」を推進

当社グループは、2011年11月に発表した「エネルギーと未来のために東京ガスグループがめざすこと。～チャレンジ2020ビジョン～」(以下、「チャレンジ2020ビジョン」)の実現に向けて、「LNGバリューチェーンの高度化」を一丸となって推進しています。

天然ガスが果たす役割や当社への期待が高まる中、「LNGバリューチェーンの高度化」を通じて、こうした社会的要請に応えるとともに、LNGの調達から輸送、製造、供給、エネルギーソリューションの提供に至るすべての事業を展開する東京ガスグループの強みを活かして価値を生み出すことを目指しています。

わが国では、東日本大震災以降、中長期的なエネルギーのあり方が問われています。将来の電力産業のあり方を定める電力システム改革は、今後、法整備が進められる見通しです。一方、都市ガス産業においても、今般、システム改革の議論が開始されました。当社としてはシステム改革の行方を注視し、適切に対応していきます。

■ 発表から2年、取り組みは着実に進展

原料調達に関しては、「調達ソース」「契約条件」「LNGのグローバルネットワーク」の3つの観点で多様化を進め、供給安定性の確保や原料価格の低減に継続して取り組んでいます。従来のアジア

・オーストラリアに加え、米国における取り組みを積極化しており、上流事業では2013年3月に、米国バーネット堆積盆のシェールガス開発事業の権益を取得しました。また4月に天然ガスの液化加工委託およびLNGの売買に関する基本合意書を締結した米国コーブポイントLNGプロジェクトに対して、9月11日(現地時間)に米国エネルギー省(DOE)が自由貿易協定(FTA)未締結国向けのLNG輸出許可を発行しました。これにより、当社として初めてのヘンリーハブ連動価格でのLNG輸入実現に向けて大きく前進しました。また、このプロジェクトには第3国への輸出も可能である、仕向地自由という条件が付されており、「調達ソース」「契約条件」「LNGグローバルネットワーク」の3つの多様化に資するものです。

▶原料調達については、P.5「特集 東京ガスの原料調達」をご覧ください。

インフラ整備の観点からは、当社第4のLNG受入基地となる「日立LNG基地」と、高圧パイプライン「茨城～栃木幹線」の建設工事を着実に進めています。また、日立LNG基地から鹿島臨海工業地帯に延びる「日立～鹿島幹線(仮称)」についても、陸上ルートと海底ルートの調査を開始するなど、ガス供給能力の向上や関東圏全域における供給インフラ全体のエネルギーセキュリティ向上に向けて、確実に取り組みを進めています。

多様なエネルギーソリューションの提供に向

けて、電力事業を拡大すべく、2016年3月期中の運転開始を目指し、扇島パワーステーション3号機の建設工事を進めています。また、電力需給逼迫対応に加え、CO₂排出量削減の観点から環境問題にも大きく貢献する家庭用燃料電池「エネファーム」について、2013年4月には大幅なコストダウンと商品の設置性向上などを実現した新製品を発売するとともに、10月には世界初となる集合住宅用「エネファーム」の受注を開始しました。これまでの戸建用に加え、集合住宅用の「エネファーム」もラインアップされたことにより、これまで以上にお客さまのニーズに対応でき、今後の販売拡大が見込まれています。

■ 料金改定

10月30日の第2四半期決算発表時に、小口部門平均2.09%のガス料金の引き下げを発表いたしました。天然ガスに対するお客さまや社会からの期待が高まる一方で、エネルギーコストが上昇傾向にある昨今の状況を踏まえ、供給安定性・環境適合性・利便性などに優れる天然ガスをより一層お使いいただきやすくなるために、今後発生すると想定される当社の経営の成果をできるだけ早くお客さまに還元するものです。これにより一時的に当社の利益は減少しますが、今後の継続的な経営努力により2020ビジョンで掲げた目標は達成する見通しです。



■ 株主還元

株主の皆さまへの還元につきましては、「総配性向6割程度」という当社の株主還元方針を今後も引き続き堅持いたします。配当については、前年度より1円増配して年間配当を10円としたことを受けて、中間配当を1株当たり5円といたしました。今後の配当につきましては、これまでと同様、安定配当を維持しつつ、成長に合わせてステップバイステップで増配を実現していく予定です。

株主の皆さまにおかれましては、エネルギーと未来のため、またグループの持続的成長のために邁進する東京ガスグループに、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年11月

岡本 毅

東京ガスの原料調達

東京ガスグループでは、「エネルギーと未来のために東京ガスグループがめざすこと。～チャレンジ2020ビジョン～」に基づき、安定的、かつ安価な原料調達を実現するために、さまざまな施策を進めています。



プルートプロジェクトからの出荷準備作業
Woodside-operated Pluto LNG onshore gas plant, image courtesy of Woodside

東京ガスの原料調達について

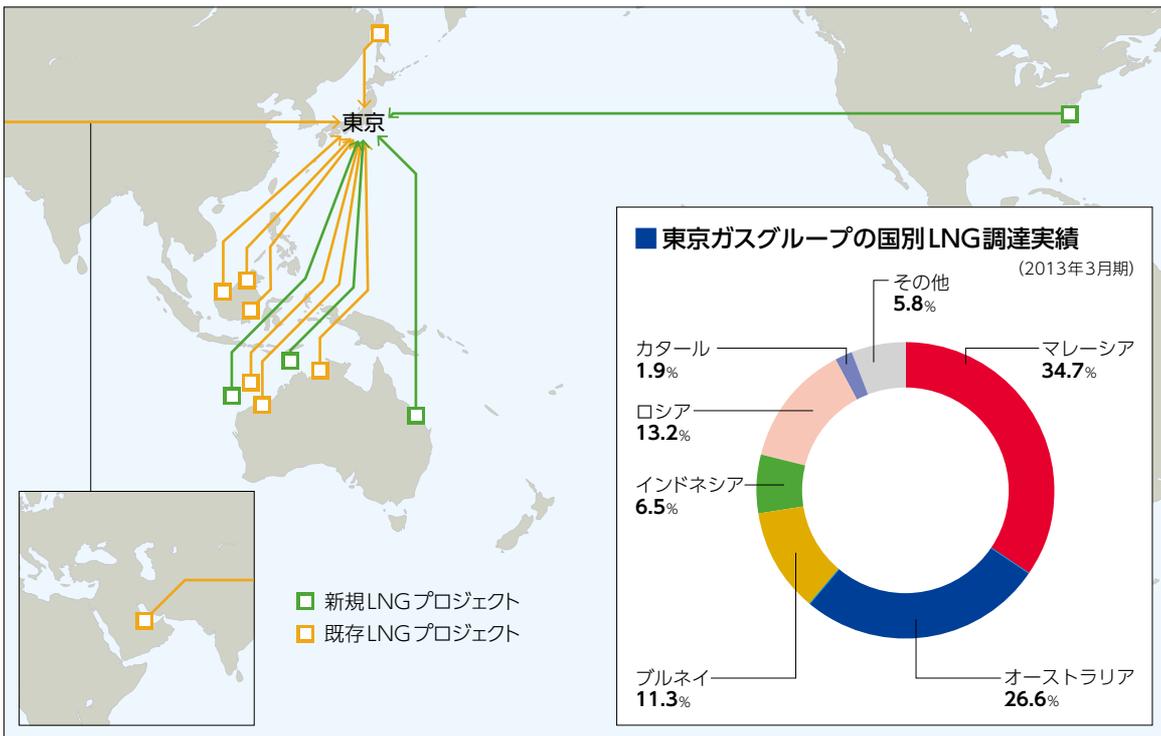
当社のお客さまにお使いいただいている都市ガスは、海外から輸入したLNG（液化天然ガス、Liquefied Natural Gas）を主原料としています。

LNGは天然ガスをマイナス162℃まで冷却し液化させたもので、気体の状態に比べて体積は600分の1になります。LNGをタンカーで当社のLNG基地まで運んだ後、再度気体に戻し、パイプラインを通じて当社からお客さまのお手元までお届けしています。

東京ガスではLNGを東南アジア、オーストラリアをはじめとした世界各地から輸入しています。2013年3月期については、1,271万tのLNGを海外から輸入しました。

今後当社は「チャレンジ2020ビジョン」の実現を目指してまいります。ガス販売量の拡大に伴い調達するLNGも増大していきます。首都圏のエネルギー供給を担う当社として、お客さまにいかに安定的、かつ安価にエネルギーをお届けするかが当社の最重要課題の1つと考えています。

東京ガスグループのLNG調達先



安定的、安価な原料調達に向けて

東京ガスは安定的、かつ安価なLNGの調達を図るべくさまざまな取り組みを進めています。

原料調達において、現状LNGは原油価格と連動した価格決定の仕組みが一般的となっています。従って、原油価格が上がるとLNGの価格も上昇することになります。

日本では代替のエネルギー源が乏しく、また、北米や欧州などではLNGの代替となるガスパイ

プラインがありますがアジア地域にはこういった代替手段がありません。そのため売主に対する価格交渉力が相対的に弱く、アジアプレミアムと呼ばれる欧米と比較し高い価格でのLNG調達を余儀なくされてきました。

東京ガスは、このような環境下で、LNGの売主と厳しい交渉を続け少しでも安価なガスをお客さまにお届けする努力を続けてきました。

3つの多様化

当社は今後も安定的、かつ安価な原料調達を実現するために、「3つの多様化」をLNGの調達戦略として進めていきます。

「3つの多様化」とは、①調達先の多様化②契約内容の多様化③グローバルLNGネットワークの構築、の3つからなるものです。

① 調達先の多様化

現在当社は6か国、11プロジェクトからLNGを輸入していますが、調達先をさらに北米等に拡大するものです。また、従来型のLNGプロジェクトだけでなく、フローティングLNG*等新たな技術を使用したプロジェクトからも調達の範囲を拡大していきます。

* 洋上で天然ガスを精製・液化・貯蔵・積み出しを行う浮体式の生産の仕組み

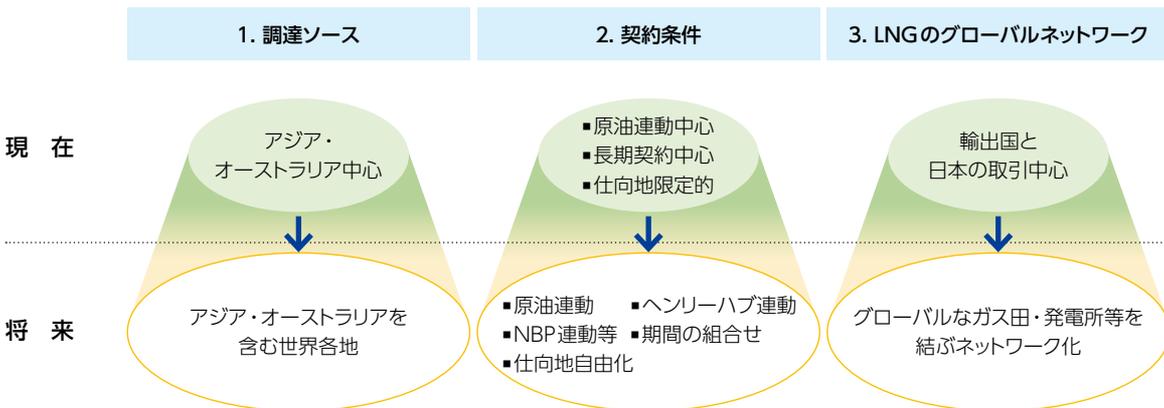
② 契約内容の多様化

LNGは、従来原油価格に連動した価格体系をとる契約が中心でした。これに今後は米国・欧州のガス価格指標に連動したものを取り入れる、契約期間についても長期契約中心でしたがこれに中短期契約も加える、売主の了解なしにLNGの第三者への転売を制限する契約条件が一般的であったものから、これを自由化したものを取り入れる、などの施策を進めます。

③ グローバルLNGネットワークの構築

現在はグローバルには地域間でLNGの価格差が見られますが、アジアと北米・欧州を結ぶ商流を築くことで、この縮小を図ります。また、海外の上流事業と発電所などのいわゆる下流事業を

■ 原料調達における「3つの多様化」



結び付けることで、発電所向けに使用している LNG を需給逼迫時に都市ガス用に転用するな

ど、柔軟に原料の融通を行うことができる環境の整備を目指します。

コーブポイントプロジェクトでの取り組み

「3つの多様化」について、当社は着実に具体化を進めています。その具体化の1つがコーブポイントプロジェクトからのLNG調達です。

2013年4月、当社はLNG長期契約として初めて米国天然ガス市場価格を指標とするLNG売買契約を締結し、コーブポイントプロジェクトからのLNG調達を決めました。

コーブポイントプロジェクトは米国メリーランド州で住友商事株式会社と当社が共同して進めているLNGプロジェクトで、米国の市場から調達した天然ガスを液化しLNGとして輸出するものです。

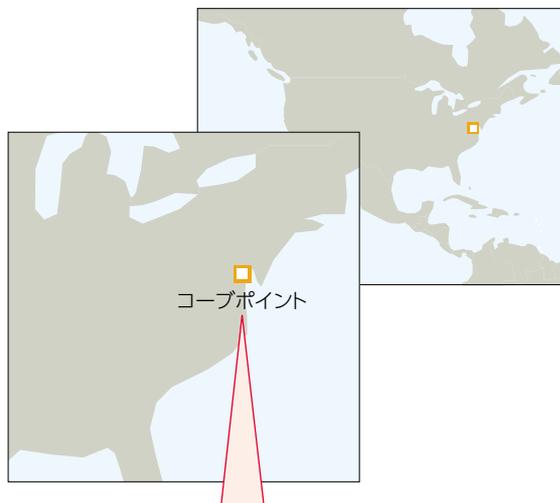
これは、シェールガスの生産が本格化した米国からのLNG調達であること、LNG価格が米国の天然ガス価格指標である「ヘンリーハブ」価格に連動していること、調達したLNGの第三者への転売を実施できる契約条件であることなど、「3つの多様化」を大きく進めるものです。

日本は米国と自由貿易協定を未締結であるため、当社がLNGを調達するためには米国エネルギー省からLNGの輸出許可が必要でしたが、現地時間の9月11日、輸出許可が発行されました。今後必要なプロセスを経て、2017年のプロジェクト稼働、日本への輸出に向けてプロ

ジェクトを推進していきます。

今後もお客さまに当社をご愛顧いただけるよう、東京ガスは安定的かつ安価な原料調達をはじめ、さまざまな施策を進めていきます。

■ コーブポイントプロジェクト



2013年9月 米国エネルギー省がLNG輸出許可を発行

多様化を大きく進める

- 米国の調達ソース
- ヘンリーハブ価格連動
- 仕向地が自由な契約

「東京ガス横浜ショールーム」開設

2013年6月、神奈川県横浜市西区の「横浜・みなとみらい21地区」における最大規模の商業施設「MARK IS みなとみらい」内に「東京ガス横浜ショールーム」を開設しました。

「MARK IS みなとみらい」は、“ライフエンターテインメントモール”をコンセプトに、子育て世代やその親世代を含めた幅広い層をターゲットとした商業施設です。当社の基幹ショールームは、新宿（東京都新宿区）、多摩（東京都立川市）と横浜の3か所*ありますが、商業施設内での開設は本横浜ショールームが初めての試みとなります。

新築・リフォーム等、住宅設備の導入を検討中のお客さまに、最新のガス機器・設備の体験を通

じて、環境性と快適性を両立する暮らしを体感いただけるほか、「環境・省エネ」「防災」をテーマに「暮らしの知恵」をご紹介するコーナーや、地元のシェフと連携し横浜ならではの食文化を発信する「クッキングスタジオ」などをご用意しています。

また、日本初のガス灯が1872年に横浜に誕生してから現在の「横浜スマートシティプロジェクト」の取り組みに至るまでの横浜と都市ガスの歴史を紹介するなど地域に根差したコーナーも充実しています。

今後、近隣の住宅設備ショールームとも連携しながら、年間で30万人の来館を見込んでいきます。横浜へお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

*本ショールームの開設に伴い、横浜市中区の「東京ガス横浜ショールーム」は2013年6月11日に閉館しました。



東京ガス横浜ショールーム

住所 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-5-1
MARK IS みなとみらい4F

TEL 045-650-6630

FAX 045-681-3860

開館時間 10:00 ~ 20:00

休館日 年中無休

URL <http://home.tokyo-gas.co.jp/showroom/ty/s/>

東京ガス 横浜ショールーム

検索



世界初 マンション向け家庭用燃料電池「エネファーム」を発売

当社は、世界で初めてマンション向け家庭用燃料電池「エネファーム」を、パナソニック株式会社と共同で開発し、2014年4月1日に発売します。

「エネファーム」は、都市ガスから取り出した水素を空気中の酸素と反応させることで発電し、その際に発生する熱でお湯をつくるシステムです。マンションのパイプシャフト内に燃料電池ユニット、貯湯ユニット、バックアップ熱源機をすべて設置できる仕様として製品化したのは、世界初となります。

本製品では、火力発電所からの電気と都市ガス給湯器からの給湯を行う方式*と比べ、定格発電時にCO₂排出量を約49%*、一次エネルギー消費量を約37%*削減できます。モデルケースで年間光熱費を約3～4万円節約し、年間CO₂排出量を約1.0トン*削減できます。

当社は本製品を2014年度に500台受注する計画です。なお、2013年10月21日時点で、総合地所株式会社および東急不動産株式会社から自社が供給する分譲マンション（計2物件、456戸）に本製品を採用する意向をいただいています。

これからも「エネファーム」の普及を通じて、お客様の快適な暮らしと地球環境の保全、電力ピークカットなどに貢献していきます。

* 試算条件は以下の通りです。

- (1) 一次エネルギー換算値:電気9.76MJ/kWh(エネルギーの使用の合理化に関する法律)、ガス45MJ/m³(東京ガスデータ)、給湯効率80%
- (2) CO₂排出係数:電気0.69kg-CO₂/kWh(「中央環境審議会地球環境部目標達成シナリオ委員会中間取りまとめ」2001年7月より)、ガス2.29kg-CO₂/m³(東京ガスデータ)
- (3) 年間負荷/給湯:13.01GJ、風呂保温:1.45GJ、調理:1.8GJ、冷房:4.15GJ、床暖房:7.75GJ、エアコン暖房:2.77GJ、照明他:11.41GJ(マンション(延床面積80m²)3人家族を想定)
- (4) 電力需要/ガス・電気併用住宅の電気消費量:3,643kWh(東京ガス調べ)
- (5) ガス料金/従来システム:「暖らんぷらん」適用、エネファーム:「エネファームで発電エコぷらん」適用。電気料金/従来システム、エネファームともに従量電灯B適用、契約40アンペア。
ガス・電気料金/2013年1月時点での調整単位数に基づく試算。

商品外観 (パイプシャフト内設置時)



パイプシャフトの扉を開いた状態



パイプシャフトの扉を閉じた状態

マンション開放廊下側パイプシャフト内への設置イメージ例





東京ガスで味わう おいしい食卓



香ばしく焼いた鯛を、丸ごと1匹使って炊き込んだ土鍋ご飯。
鯛の香りがほのかに移ったご飯が味わい深く上品です。

土鍋で
作る

ごちそう鯛めし



材料 (5～6人分)

米.....3合
昆布 (10cm角).....1枚
鯛.....1尾
塩.....小さじ2/3

A

酒.....カップ1/4
塩.....小さじ1/3
薄口醤油.....大さじ1
木の芽.....12枚

作り方

① 米は洗ってザルに上げて水気を切り、土鍋に入れて昆布をのせ、水480mlを加えて30分以上つける。

② 鯛はうろことえら、内臓を取り除き、塩をふって10分程おき、水気をふき取る。鯛の皮目に切り目を入れ、焼き色がつかまでグリルで焼く。



えらぶたと尾は焦げやすいので、内側にサラダ油などを塗ったアルミホイルで覆って焼く。

(両面焼きグリル強火で6分が目安)

③ ①の昆布を取り出し、Aを加えて軽く混ぜ、焼いた鯛をのせてふたをし、中火で10分かけて沸騰させてから弱火で20分加熱し、火を止めて10分蒸らす。

④ 仕上げに木の芽を飾る。



炊き上がったら鯛を取り出して身をほぐし、ご飯と混ぜ合わせて器に盛り、木の芽を飾る。

監修:東京ガス「食」情報センター

炎の料理教室 100周年 そして未来へ

100th 東京ガストロノミー

2013年、東京ガス料理教室は100周年を迎えました
各種料理教室を開催中

詳細はHPへ

<http://www.tg-cooking.jp/>

東京ガス 料理教室

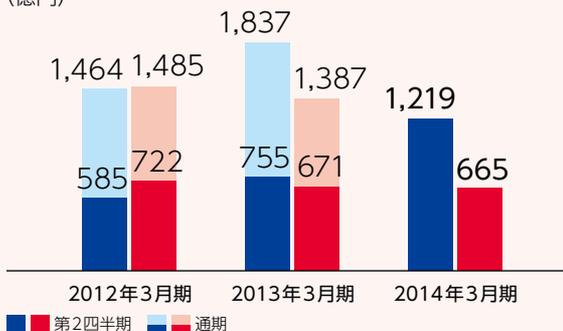
検索



連結決算のご報告

■ 設備投資 / ■ 減価償却費

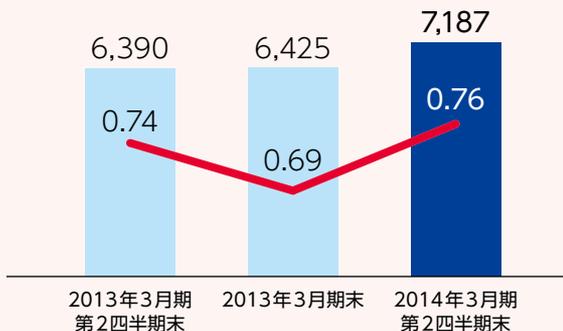
(億円)



積極的な海外上流投資を行った結果、当第2四半期の設備投資額は、グループ全体で前年同期比61.4%増となりました。減価償却費は償却の進行等により同0.9%の減少となりました。

■ 有利子負債 / ■ D/Eレシオ

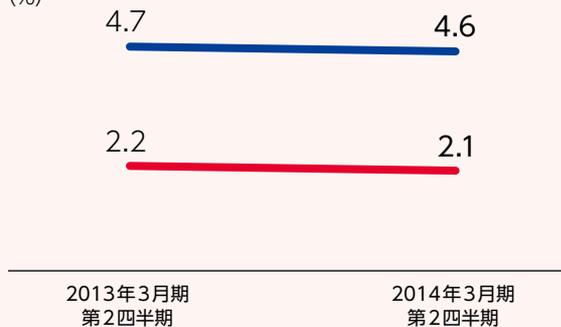
(億円/倍)



積極的な投資に対応して長期借入金が増加したこと等により、当第2四半期末の有利子負債は前期末比11.9%増加しました。この結果、D/Eレシオは0.07ポイントの上昇となりました。

■ ROE / ■ ROA

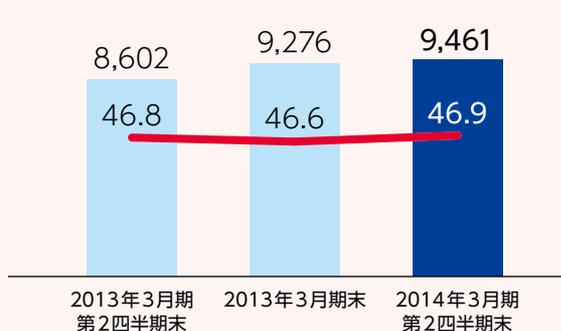
(%)



四半期純利益が前年同期比7.0%増加した一方、自己資本及び総資産が増加したことにより、ROEは前年同期比0.1ポイント減の4.6%、ROAは同0.1ポイント減の2.1%となりました。

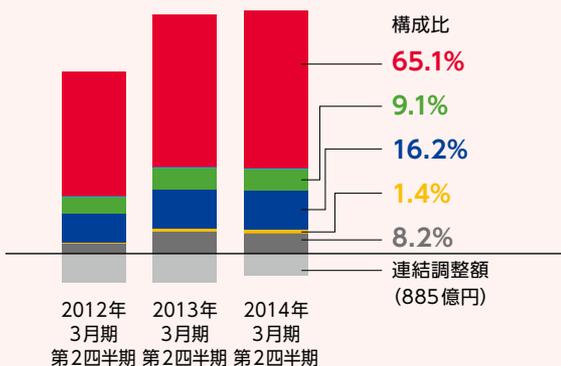
■ 自己資本 / ■ 自己資本比率

(億円/%)



当期純利益の積み上がりなどにより、自己資本は前期末比2.0%増加しました。自己資本の増加率が総資産の増加率を上回ったため、自己資本比率は0.3ポイント上昇しました。

セグメント別売上高



■ 都市ガス 6,646億円

約1,100万件のお客さまに都市ガスを販売しています。売上高は前年同期比5.8%増加しました。ガス販売量の内訳は右図の通りです。

■ 器具及びガス工事 933億円

ガス器具の販売や、お客さまの敷地内のガス工事を行っています。売上高は前年同期比0.1%減少しました。

■ その他エネルギー 1,658億円

電力・LNGの販売やエネルギーサービスを行っています。売上高は前年同期比5.1%増加しました。

■ 不動産 145億円

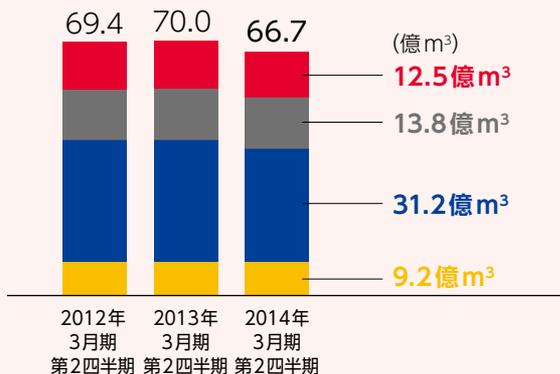
新宿パークタワーをはじめとする、商業・オフィス施設の賃貸・管理等を行っています。売上高は前年同期比3.4%減少しました。

■ その他 836億円

建設、情報処理サービス、船舶、クレジット・リース、海外などの事業を行っています。売上高は前年同期比5.0%減少しました。

用途別ガス販売量の実績

当期のガス販売量は、気温影響による家庭用需要の減少や、発電用ガスを自家使用ガスへ会計処理を変更したことによる工業用需要の減少を受けて、前年同期比4.6%減の66.7億 m^3 となりました。



■ 家庭用 6.4%減

お客さま件数は増加しているものの、気温が前年同期と比較して高く推移した影響を受けて暖房・給湯需要が減少し、家庭用ガス販売量は減少しました。

■ 業務用 0.5%減

気温影響による増加が見られましたが、業務用ガス販売量はほぼ前年同期並みとなりました。

■ 工業用 7.0%減

発電用ガスを自家使用ガスへ会計処理を変更したこと等による工業用需要の減少により、工業用ガス販売量は減少しました。但し、自家使用ガスも含む実質使用量は6.5%増加しています。

■ 他事業者向け供給 0.4%増

気温影響による減少が見られましたが、供給先事業者の需要が増加したことにより微増となりました。

会社情報 (2013年9月30日現在)

■ 会社概要

会社名	東京ガス株式会社
本社所在地	〒105-8527 東京都港区海岸1-5-20
創立	1885(明治18)年10月1日
従業員数	8,075人(連結17,180人) 注：従業員数は常勤の従業員数を記載しており、 出向者および臨時従業員を含みません。
格付け	AA+(R&I:格付投資情報センター) Aa3(ムーディーズ) AA-(スタンダード&プアーズ) AAA(JCR:日本格付研究所)
連結子会社	69社
持分法適用関連会社	6社

■ 取締役および監査役

取締役会長 鳥原 光憲	取締役 (常務執行役員) 吉野 和雄	社外取締役 佐藤 行雄 富澤 龍一 中垣 喜彦	常勤監査役 福本 学 大谷 勉
代表取締役社長 (社長執行役員) 岡本 毅	幡場 松彦 救仁郷 豊 三神 正博		社外監査役 増田 幸央 森田 嘉彦 大谷 幸二郎
代表取締役 (副社長執行役員) 村木 茂 広瀬 道明			

■ 執行役員

常務執行役員 青沼 光一 尾花 秀章 小林 裕明 内田 高史	安岡 省 村関 不三夫 荒井 英昭	執行役員 高橋 秀文 田邊 義博 高松 勝 高橋 道晴 原文比古	傳 清忠 齊藤 隆弘 中島 功 野畑 邦夫 高木 信以智
--	-------------------------	---	--

■ 株式の状況

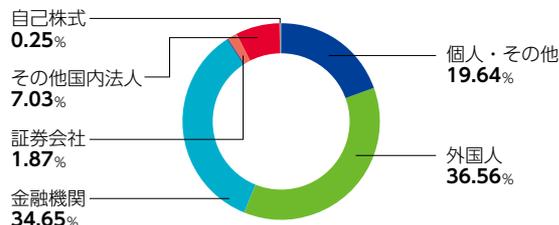
資本金	141,844,398,888円
発行可能株式総数	6,500,000,000株
発行済株式の総数	2,517,551,295株
株主数	130,523名

■ 大株主

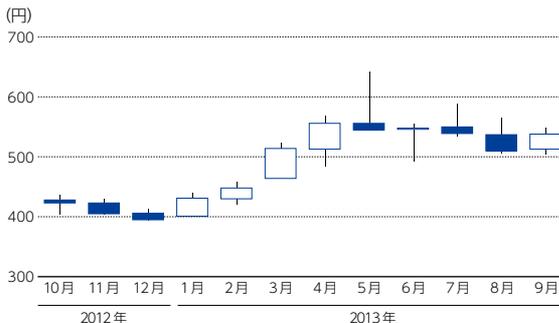
株主名	持株比率(%)	持株数(千株)
日本生命保険相互会社	6.36	159,740
第一生命保険株式会社	4.80	120,472
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3.91	98,282
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3.48	87,391
東京瓦斯グループ従業員持株会	1.83	45,850
富国生命保険相互会社	1.64	41,103
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託第一生命保険口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	1.41	35,490
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	1.28	32,098
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT	1.18	29,588
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	1.13	28,489

注：持株比率は自己株式(6,218,680株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式分布状況



■ 株価の推移 (東京証券取引所)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
定時株主総会	毎年6月	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日	郵便物送付先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
証券コード	9531	

「配当金計算書」について

配当金お支払いの際に同封している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行われる際には、添付資料としてご利用いただけますので大切に保管してください。ただし、株式数比例配分方式で配当をお受け取りの株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算が証券会社等で行われるため、確定申告時の添付資料に関するお問い合わせは、お取引の証券会社をお願いいたします。

株式に関するお問い合わせ先

株式に関する各種手続は、お取引の証券会社でのお取扱いとなります。

なお、保有株式が特別口座で管理されている場合は、特別口座管理機関の三井住友信託銀行株式会社でのお取扱いとなります。
[TEL 0120-782-031 (受付時間：平日9:00-17:00)]

東京ガス株式会社

東京ガス通信に関するお問い合わせ

TEL 03-5400-3888
財務部IRグループ

株式その他のお問い合わせ

TEL 03-5400-3894
総務部総務グループ

今号の表紙について



「エネルギー ホライズン」号

2011年8月に就航した、東京ガスグループが保有・管理する10隻目のLNG船。4つの球形タンクを有し、その総容量は177,000m³である。これは、約27万件の家庭が年間に使用するガス量に相当する。LNG船としては世界で初めての高効率蒸気タービンを採用することにより、従来の蒸気タービンと比較して燃費効率を約15%向上させた。

写真に重ねた右下が赤いT字は、東京ガスのロゴマークをイメージしている。



この冊子は、社内の使用済み文書、管理された植林地材および再・未利用材を原料とした「東京ガス循環再生紙」と、有機溶剤の少ない植物油インキを使用して印刷しています。